

2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月10日

上場会社名 株式会社アシックス 上場取引所 東
 コード番号 7936 URL <https://corp.asics.com/jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO兼COO (氏名) 廣田 康人
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理財務統括部長 (氏名) 林 晃司 (TEL) 050-1744-3104
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	448,105	23.4	55,805	54.8	54,748	60.0	40,280	73.3
2022年12月期第3四半期	363,068	12.7	36,051	0.7	34,219	△4.1	23,245	21.9

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 61,897百万円 (10.2%) 2022年12月期第3四半期 56,192百万円 (78.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	219.87	219.69
2022年12月期第3四半期	126.95	126.84

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	462,050	225,776	48.4
2022年12月期	425,067	172,729	40.1

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 223,741百万円 2022年12月期 170,614百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	16.00	—	24.00	40.00
2023年12月期	—	25.00	—		
2023年12月期（予想）				35.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正につきましては、本日（2023年11月10日）公表いたしました「2023年12月期通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	570,000	17.6	52,000	52.9	50,000	61.7	27,500	38.3	150.11

(注) 直近に公表されている連結業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正につきましては、本日（2023年11月10日）公表いたしました「2023年12月期通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
（注）詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無
- （注）詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	189,870,559株	2022年12月期	189,870,559株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	6,634,363株	2022年12月期	6,700,633株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	183,201,373株	2022年12月期3Q	183,104,838株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述などについてのご注意）

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料7ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2023年11月10日（金）に機関投資家、証券アナリスト、報道機関向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する四半期決算補足説明資料については、開催同日に当社ホームページ

(https://corp.asics.com/jp/investor_relations/library/financial_summary) に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	10
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計方針の変更)	12
(追加情報)	12
(四半期連結貸借対照表関係)	13
(四半期連結損益計算書関係)	13
(セグメント情報)	14
3. 補足情報	16
(1) 地域別売上高	16
(2) 在外子会社為替換算レート	16
(3) 報告セグメント別売上高増減比、セグメント利益増減比及びセグメント利益率	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の主要な取組み

年初来、スポーツイベントの開催が本格的に再開し、数年ぶりに人々の自由な移動が可能となるなど、社会経済活動は正常化しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,481億円と第3四半期連結累計期間では過去最高となり、全地域、全カテゴリーにおいて前年同期比で増収となりました。地域別では、インバウンド需要の取り込みに加え、ワーキングシューズやバスケットボールシューズを中心にコアパフォーマンススポーツが躍進した日本地域のアシックスジャパンで+35.6%、引き続きローカル性を重視した戦略により現地ニーズに柔軟に対応した中華圏地域では、パフォーマンスランニングやスポーツスタイルが好調に推移し+28.8%となりました。東南・南アジア地域は、好調が続くインドに加え、マレーシア、インドネシアが大きく増収しました。当第3四半期連結累計期間では、ほぼ全ての地域で引き続き堅調に成長しました。

粗利益率は、仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化やチャネルミックスの良化などにより前年同期から1.2ppt改善し、51.2%となりました。

当第3四半期連結累計期間の営業利益は、第3四半期連結累計期間では過去最高の558億円となり、前年同期比+54.8%となりました。継続的な販管費コントロールに加え、増収効果もあり、販管費率が低下し、営業利益率は前年同期の9.9%から12.5%の大幅改善となりました。

当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益も第3四半期連結累計期間では過去最高の402億円となりました。

当第3四半期連結累計期間の好調な業績の進捗を踏まえ、通期業績予想を上方修正することとなりました。また、期末予想配当につきましては、当期の業績やキャッシュ・フローの状況を総合的に勘案し、1株当たり35円に修正いたします。これにより、期初時点の過去最高の年間配当予想44円から更に増配し、年間配当予想を1株当たり60円に増額修正いたします。

◇デジタル

OneASICS会員の継続的な増加（前年同期比+32.6%の約882万人）もあり、ECの売上高は前年同期比+35.4%の765億円となり、OneASICS会員数の増加とともに、ECの売上高も着実に伸長してきております。引き続き、OneASICS会員獲得を推進し、ランニングエコシステム拡充に向け、ランナーとの直接的な接点獲得を推進してまいります。

◇ランニングエコシステム

①東京・丸の内内にランステーションを併設した総合型ストア「ASICS RUN TOKYO MARUNOUCHI（アシックスラン東京丸の内）」を、8月にリニューアルオープンしました。当ストアは、ランニングスポットとして人気の皇居にも気軽に走りに行くことができる好立地です。今回のリニューアルオープンを機に、足の形や走り方の分析・診断、シューズやウェアの購入、日々のトレーニングのサポート、レース登録やレース後のケアといったランニングに関わる一連のサービスをすべて「ASICS RUN TOKYO MARUNOUCHI」で完結して頂けることを目指します。

②オーストラリアにて9月に開催されたシドニーマラソンでは、エントリーからレース完走後に至るまで、ランナーの活動に沿った新たな顧客体験を提供しました。OneASICS会員の特典として、エントリー完了からレース当日に向けて、トレーニングプランの提案、参加者向けコミュニティやチャレンジ企画への招待、目標に応じた商品推奨などを実施しました。レース後には、リカバリーサービスの提供、完走シーンの動画配信などのサービスを提供しました。多くのOneASICS会員の新規獲得に加え、イベント関連商品のオンライン売上も前年を大幅に上回りました。

今後も、このようなランニングエコシステムの拡充を図り、さらにグローバル展開を目指してまいります。

◇ブダペスト世界陸上選手権大会

8月にハンガリーのブダペストにて、アシックスがオフィシャルスポンサーを務める世界陸上が開催され、大会に出場したアシックス契約選手は前回の40名から92名へと大幅に増加しました。今大会ではアシックスのメタスピードシリーズを着用した選手が活躍し、スペイン代表のモハメド・カティル選手が5000mで銀メダルを、アメリカ代表のフレッド・カーリー選手が4×100mリレーで金メダルを獲得しました。

また、男女マラソンにおけるアシックスのシューズ着用率も前回の大会を大きく上回り、18.6%（自社調べ）でした。

◇カテゴリー

・パフォーマンスランニング

売上高は、日本地域、中華圏地域、東南・南アジア地域で2桁増収となり、2,270億円と前年同期比+15.1%となりました。主要地域において「GEL-KAYANO 30」の販売が前モデルを上回り好調に推移しました。

・コアパフォーマンススポーツ

売上高は、テニスやワーキングシューズが牽引し、610億円と前年同期比で+48.9%となりました。特にテニスシューズの売上高は、200億円と前年同期比+52.7%となり大きく伸長しました。

なお、8月から9月において開催されたテニスの全米オープンでは、アシックスとフットウェア契約を結ぶノバク・ジョコビッチ選手が男女を通じて四大大会シングルス歴代最多タイとなる通算24回目の優勝を果たしました。同選手が着用したシグネチャーモデルである「COURT FF 3 NOVAK」は、安定性とスピードを両立させコート上での最高のパフォーマンスを発揮できるシューズです。

・オニツカタイガー

①売上高は、インバウンド需要を取り込んだ日本地域での大幅伸長に加え、東南・南アジアなどでも大きく成長し、448億円と前年同期比+40.8%となりました。また、販売価格コントロールの効果もあり、カテゴリー利益は前年同期比で2倍超と好調に推移しました。

②8月に大胆なレタリングの新しいロゴを使用しているイエローコレクションを専門に取り扱う世界初のコンセプトストアを銀座にオープンしました。

コンセプトストアはこの新しいロゴを冠し、建物全体をイエローのボックスに見立てた先進的なデザインに仕上げられています。銀座は伝統を守りながらも挑戦し続ける街であり、コンセプトストアを通してコレクションの世界観を世界に発信してまいります。

◇パリ2024パラリンピック競技大会

アシックスは、国際パラリンピック委員会（International Paralympic Committee 略称=IPC）と、パリ2024パラリンピック競技大会のオフィシャルサプライヤー契約を締結しました。本競技大会のスタッフ用ウェアやシューズなどを提供します。

今後も、パラリンピックの発展はもとより、誰もがが生涯運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる真の共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

◇鳥海連志選手と所属契約締結

アシックスは、プロ車いすバスケットボールプレーヤーの鳥海連志（ちょうかいれんし）選手と所属契約を締結しました。同契約は、アシックス初のプロパラアスリートとの所属契約となります。

今回の所属契約は、鳥海選手が車いすバスケットボールの普及活動や自身の経験をふまえた講演会などを積極的に行っており、アシックスの目指すビジョンと一致していることから実現したものです。

◇サステナビリティ

①アシックスは、製品ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量（以下、排出量）を市販スニーカーのなかで最も低く抑えたスニーカー「GEL-LYTE III CM 1.95」を、スポーツスタイルカテゴリーより9月に発売しました。

このスニーカーはアシックススポーツスタイルを象徴するスニーカーの1つである「GEL-LYTE III OG」がベースで、先進的なソリューションを取り入れることで排出量をわずか1.95kgCO₂e^{※1}と最小限に抑えながら、品質とデザイン性を両立させたのが特徴です。排出量は発売時点で市販スニーカーのなかで最少です。^{※2}

※1 2022年8月にISO14067規格に準拠してアシックスが計算し、SGS（Société Générale de Surveillance）Japan によって検証されました。

※2 2023年9月現在、排出量が開示されている市販シューズを対象としたデータに基づいています。

②「Sustainable Japan Award 2023」(主催:株式会社ジャパンタイムズ、後援:経済産業省、環境省、金融庁)のESG部門において、最優秀賞を受賞しました。「Sustainable Japan Award」は、それぞれの分野でその年に先進的で継続可能な取組みを行った企業・団体・個人を表彰し、その活動を国内外に伝えていくことを目的に実施されており、今年で5回目となります。今回の受賞は前述の温室効果ガス排出量が最少であるスニーカー「GEL-LYTE III CM 1.95」をはじめとする製品のカーボンフットプリント*の表示、グリーン調達方針を通じたサプライチェーンとの連携など、バリューチェーン全体での当社の気候変動に対する取組みが評価されたものです。今後も引き続き、サステナビリティに配慮した取組みを推進していきます。

※ 排出量をCO₂量に換算して表示するもの。

◇ROAツリーマネジメント

ROAは12.1%となりました。ROAの構成要素である総資産は、為替の変動による押上げ影響などにより前期末から増加しましたが、粗利益率は仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化などにより、前年同期から良化しました。販管費率も、継続的な販管費コントロールにより前年同期から低下しました。

また、CCC日数は168日となりました。棚卸資産回転期間の改善により、前年同期比で18日、前期末比では21日短縮しました。

$$\text{ROA (年率換算)} = \frac{\text{2023年12月期第3四半期純利益}}{(\text{2022年12月期期末総資産} + \text{2023年12月期第3四半期末総資産}) \div 2} \times \frac{4}{3}$$

◇社長交代に関する取締役会決議

9月15日開催の取締役会において、2024年1月1日付で代表取締役社長CEO兼COOである廣田康人は代表取締役会長CEOに、常務執行役員CDO・CIOである富永満之が社長COOに就任する人事異動を決議いたしました。*

新たに社長に就任する富永は、米国の大学を卒業後、IT関連企業においてマネジメントとして重責を担いました。2018年にアシックスに入社以来、一貫してデジタル事業を統括しております。

約6年ぶりとなる今回の社長交代を通じて、アシックスはさらなるグローバル化とデジタル化の推進を目指してまいります。

※ 富永は2024年3月22日開催予定の定時株主総会にて取締役に選任予定。また、同日開催の取締役会にて代表取締役に選任予定。

- ① 売上高
為替影響に加え、全てのカテゴリで好調に推移したこともあり、448,105百万円と前年同期比23.4%の増収となりました。
- ② 売上総利益
上記増収の影響により、229,628百万円と前年同期比26.5%の増益となりました。
- ③ 営業利益
上記増収の影響により、55,805百万円と前年同期比54.8%の増益となりました。
- ④ 経常利益
上記増収増益の影響に加え、為替差益の計上などにより、54,748百万円と前年同期比60.0%の増益となりました。
- ⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益
上記増収増益の影響などにより、40,280百万円と前年同期比73.3%の増益となりました。

カテゴリ別の経営成績は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

(カテゴリ)	売上高			カテゴリ利益		
	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (△は減)	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額 (△は減)
パフォーマンスランニング	197,270	227,070	29,799	43,910	44,568	657
コアパフォーマンススポーツ	40,998	61,048	20,049	8,266	13,003	4,737
スポーツスタイル	31,443	45,958	14,515	5,345	10,377	5,032
アパレル・エクイップメント	26,623	28,018	1,395	△578	2,016	2,594
オニツカタイガー	31,868	44,874	13,005	6,411	12,918	6,507

- ① パフォーマンスランニング
売上高は、全ての地域で好調に推移し、227,070百万円と前年同期比15.1%の増収となりました。カテゴリ利益につきましては、上記増収の影響などにより、44,568百万円と前年同期比1.5%の増益となりました。
- ② コアパフォーマンススポーツ
売上高は、全ての地域で好調に推移し、61,048百万円と前年同期比48.9%の増収となりました。カテゴリ利益につきましては、上記増収の影響などにより、13,003百万円と前年同期比57.3%の増益となりました。
- ③ スポーツスタイル
売上高は、全ての地域で好調に推移し、45,958百万円と前年同期比46.2%の増収となりました。カテゴリ利益につきましては、上記増収の影響などにより、10,377百万円と前年同期比94.1%の増益となりました。
- ④ アパレル・エクイップメント
売上高は、中華圏地域やオセアニア地域での好調により、28,018百万円と前年同期比5.2%の増収となりました。カテゴリ利益につきましては、粗利益率の改善などにより、2,016百万円と黒字転換いたしました。
- ⑤ オニツカタイガー
売上高は、全ての地域で好調に推移し、44,874百万円と前年同期比40.8%の増収となりました。カテゴリ利益につきましては、上記増収の影響などにより、12,918百万円と前年同期比101.5%の大幅増益となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

- ① 日本地域
売上高は、全てのカテゴリーが好調だったことにより、101,942百万円と前年同期比14.3%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響や粗利益率の改善などにより、11,229百万円と前年同期比160.1%の大幅増益となりました。
- ② 北米地域
売上高は、パフォーマンスランニングやコアパフォーマンススポーツが好調だったことにより、87,799百万円と前年同期比16.1%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響や粗利益率の改善などにより、1,900百万円と前年同期比33.0%の増益となりました。
- ③ 欧州地域
売上高は、全てのカテゴリーが好調だったことにより、122,212百万円と前年同期比19.3%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、15,274百万円と前年同期比21.6%の増益となりました。
- ④ 中華圏地域
売上高は、全てのカテゴリーが好調だったことにより、61,393百万円と前年同期比28.8%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、13,026百万円と前年同期比22.0%の増益となりました。
- ⑤ オセアニア地域
売上高は、全てのカテゴリーが好調だったことにより、28,805百万円と前年同期比16.0%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、4,956百万円と前年同期比18.0%の増益となりました。
- ⑥ 東南・南アジア地域
売上高は、全てのカテゴリーが好調だったことにより、21,446百万円と前年同期比54.3%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、4,818百万円と前年同期比76.9%の増益となりました。
- ⑦ その他地域
売上高は、パフォーマンスランニングやオニツカタイガーが好調だったことにより、38,611百万円と前年同期比15.5%の増収となりました。
セグメント利益につきましては、上記増収の影響などにより、4,518百万円と前年同期比50.3%の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態といたしましては、総資産462,050百万円（前連結会計年度末比8.7%増）、負債の部合計236,274百万円（前連結会計年度末比6.4%減）、純資産の部合計225,776百万円（前連結会計年度末比30.7%増）でした。

- ① 流動資産
受取手形及び売掛金の増加などにより、323,800百万円（前連結会計年度末比9.3%増）となりました。
- ② 固定資産
ソフトウェアの増加などにより、138,249百万円（前連結会計年度末比7.2%増）となりました。
- ③ 流動負債
支払手形及び買掛金が減少したものの、未払法人税等の増加や償還期限が1年以内となった社債の固定負債から流動負債への振り替えによる増加などにより、156,265百万円（前連結会計年度末比3.7%増）となりました。
- ④ 固定負債
償還期限が1年以内となった社債の固定負債から流動負債への振り替えによる減少などにより、80,008百万円（前連結会計年度末比21.3%減）となりました。
- ⑤ 純資産
利益剰余金の増加などにより、225,776百万円（前連結会計年度末比30.7%増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期(2023年1月1日～2023年12月31日)の通期連結業績予想及び配当予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2023年11月10日)公表いたしました「2023年12月期通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	67,383	79,668
受取手形及び売掛金	70,692	95,572
商品及び製品	132,588	122,095
仕掛品	229	181
原材料及び貯蔵品	2,765	2,565
その他	25,358	27,256
貸倒引当金	△2,895	△3,538
流動資産合計	296,122	323,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	36,392	37,957
減価償却累計額	△23,822	△25,483
建物及び構築物(純額)	12,569	12,473
機械装置及び運搬具	5,441	6,079
減価償却累計額	△3,705	△4,376
機械装置及び運搬具(純額)	1,736	1,703
工具、器具及び備品	34,067	40,035
減価償却累計額	△30,121	△33,934
工具、器具及び備品(純額)	3,945	6,100
土地	5,877	5,901
リース資産	2,010	1,557
減価償却累計額	△1,418	△1,077
リース資産(純額)	591	480
建設仮勘定	519	1,540
有形固定資産合計	25,240	28,199
無形固定資産		
のれん	7,144	7,203
ソフトウェア	19,624	24,437
使用権資産	35,582	34,834
その他	7,816	8,822
無形固定資産合計	70,167	75,298
投資その他の資産		
投資有価証券	11,843	13,795
長期貸付金	35	24
繰延税金資産	11,700	8,744
その他	11,205	13,509
貸倒引当金	△1,247	△1,323
投資その他の資産合計	33,536	34,750
固定資産合計	128,944	138,249
資産合計	425,067	462,050

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	44,670	36,727
短期借入金	22,036	17,089
1年内償還予定の社債	15,000	20,000
リース債務	11,937	13,350
未払費用	27,580	26,535
未払法人税等	2,531	7,891
未払消費税等	976	3,445
賞与引当金	727	2,715
その他	25,171	28,510
流動負債合計	150,632	156,265
固定負債		
社債	55,000	35,000
長期借入金	2,862	2,582
リース債務	32,963	32,020
繰延税金負債	2,325	2,205
退職給付に係る負債	3,789	3,911
その他	4,763	4,289
固定負債合計	101,704	80,008
負債合計	252,337	236,274
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,972	23,972
資本剰余金	15,655	15,836
利益剰余金	121,266	152,570
自己株式	△9,834	△9,716
株主資本合計	151,060	182,662
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,073	4,589
繰延ヘッジ損益	6,153	9,628
為替換算調整勘定	11,245	27,701
退職給付に係る調整累計額	△917	△840
その他の包括利益累計額合計	19,554	41,078
新株予約権	295	271
非支配株主持分	1,819	1,763
純資産合計	172,729	225,776
負債純資産合計	425,067	462,050

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	363,068	448,105
売上原価	181,559	218,477
売上総利益	181,509	229,628
販売費及び一般管理費	※1 145,457	※1 173,822
営業利益	36,051	55,805
営業外収益		
受取利息	639	2,074
受取配当金	146	158
為替差益	—	821
補助金収入	871	827
その他	1,224	516
営業外収益合計	2,881	4,398
営業外費用		
支払利息	1,734	3,497
為替差損	1,387	—
その他	1,591	1,958
営業外費用合計	4,713	5,455
経常利益	34,219	54,748
特別利益		
固定資産売却益	17	18
投資有価証券売却益	1	1,481
特別利益合計	18	1,499
特別損失		
固定資産売却損	49	49
固定資産除却損	135	30
投資有価証券評価損	151	183
減損損失	—	60
店舗休止等損失	※2 164	—
賃貸借契約解約損	157	242
国内収益構造改善損	—	151
海外収益構造改善損	—	300
特別損失合計	657	1,019
税金等調整前四半期純利益	33,580	55,228
法人税等	10,452	14,865
四半期純利益	23,127	40,362
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△118	81
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,245	40,280

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	23,127	40,362
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	803	1,516
繰延ヘッジ損益	15,174	3,475
為替換算調整勘定	17,043	16,466
退職給付に係る調整額	43	76
その他の包括利益合計	33,064	21,535
四半期包括利益	56,192	61,897
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	56,294	61,804
非支配株主に係る四半期包括利益	△102	92

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項がないため記載しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項がないため記載しておりません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについては重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確定要素が多いため、上記の仮定に変化が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当第3四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
当座貸越極度額	204,500百万円	205,500百万円
借入実行残高	22,000百万円	17,000百万円
差引額	182,500百万円	188,500百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

なお、新型コロナウイルス感染症に係る補助金を受け入れており、前第3四半期連結累計期間113百万円を販売費及び一般管理費から直接控除しております。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
荷造運搬費	14,792百万円	19,559百万円
広告宣伝費	22,339百万円	29,833百万円
支払手数料	22,354百万円	27,246百万円
貸倒引当金繰入額	94百万円	469百万円
従業員賃金給料	34,713百万円	38,229百万円
賞与引当金繰入額	2,482百万円	3,054百万円
退職給付費用	785百万円	862百万円
賃借料	9,114百万円	9,517百万円
減価償却費	11,289百万円	12,877百万円

※2 店舗休止等損失

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

新型コロナウイルス感染症に対する政府からの要請もあり、中華圏地域で一部店舗を臨時休業していた影響により、休業店舗の固定費(人件費・減価償却費など)を店舗休止等損失として特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営会議が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、世界本社として主に経営管理及び商品開発を行っております。

当社グループは、主にスポーツ用品などを製造販売しており、国内においてはアシックスジャパン株式会社及びその他の国内法人が、海外においては北米、欧州・中近東・アフリカ、中華圏、オセアニア、東南・南アジアの各地域を、アシックスアメリカコーポレーション、アシックスヨーロッパB.V.、亞瑟士(中国)商貿有限公司、アシックスオセアニアPTY. LTD. 及びアシックスアジアPTE. LTD. などがそれぞれ担当しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	60,820	75,656	102,455	47,625	24,841	13,895	33,413	358,707	4,361	363,068
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	28,333	—	24	23	0	—	10	28,393	△28,393	—
計	89,154	75,656	102,479	47,649	24,841	13,895	33,424	387,100	△24,031	363,068
セグメント利益又は損失	4,316	1,429	12,566	10,678	4,198	2,724	3,005	38,918	△2,866	36,051

(注) 1. (1) セグメント売上高の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の売上高を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の利益又は損失を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	79,050	87,799	122,181	61,200	28,805	21,428	38,610	439,078	9,027	448,105
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	22,891	—	30	192	—	17	0	23,133	△23,133	—
計	101,942	87,799	122,212	61,393	28,805	21,446	38,611	462,211	△14,106	448,105
セグメント利益又は損失	11,229	1,900	15,274	13,026	4,956	4,818	4,518	55,724	80	55,805

(注) 1. (1) セグメント売上高の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の売上高を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、報告セグメントに含まれない会社の利益又は損失を含んでおりますが、主にセグメント間調整によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(のれんの金額の重要な変動)

2022年8月31日付で株式会社アールビーズの株式を取得したことに伴い、当第3四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は「調整額」において3,916百万円であります。

なお、のれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

該当事項はありません。

3. 補足情報

(1) 地域別売上高

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米	欧州	中華圏	その他	計
62,942	77,910	106,041	47,758	68,415	363,068

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米	欧州	中華圏	その他	計
84,816	90,714	124,139	61,333	87,101	448,105

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 在外子会社為替換算レート

	USD	EUR	RMB	AUD	SGD
2022年12月期第3四半期 (円)	127.94	136.00	19.31	89.99	92.80
2023年12月期第3四半期 (円)	138.85	150.34	19.71	92.48	103.45
増減 (円)	10.91	14.34	0.40	2.49	10.65
増減比 (%)	8.5	10.5	2.1	2.8	11.5

(注) 上記にて在外子会社の損益計算書を換算しております。

(3) 報告セグメント別売上高増減比、セグメント利益増減比及びセグメント利益率

		日本地域	北米地域	欧州地域	中華圏地域	オセアニア地域	東南・南アジア地域	その他地域
売上高増減比 (%)	(外貨)	—	6.9	7.9	25.6	12.8	45.0	7.7
	(邦貨)	14.3	16.1	19.3	28.8	16.0	54.3	15.5
セグメント利益増減比 (%)	(外貨)	—	29.5	10.1	18.9	14.9	65.9	38.6
	(邦貨)	160.1	33.0	21.6	22.0	18.0	76.9	50.3
セグメント利益率 (%)		11.0	2.2	12.5	21.2	17.2	22.5	11.7